



南川口

みなみかわぐち



秋

丸から国道381号を東へ。四万十川の向こうにクリーンセンター銀河や斎場を眺めながらさらに進むと、まもなく左側に南川口の「街」が現れる。井細川が四万十川に合流する「川の口」である。現在、72世帯157人が暮らしている。

大向から南川口の間に「立目」という字名があるのだが、それより西の地域を「立西地区」という。古くは、窪川郷に対して、この立西地区を井細川郷といった。この井細川郷を形成する村々を井細川六ヶ村といい、野地、家地川、秋丸川口（現南川口）、寺野、桧生原がこれにあたる。中でも、川口はこれら六ヶ村の中でも「首都」のような存在であった。

その理由の一つとして、井細川上流域の山から切り出される良質の松や杉が挙げられる。特に「折合ヒノキ」は人気ブランドであった。ここ南川口は、林業の拠点として長くにぎわっていたのである。

当時、切り出した木材はトロッコに積み、南川口まで敷かれた鉄路で運んだ。そして一旦貯木場で降ろした後、四万十川を船で下っていった。貯木場は、現在は川口小学校の校庭となっている。昭和の後期までは、医院、薬局、旅館、駐在所、幾つかの飲食店などがあり、まさに「小さな首都」と言えるにぎわいであったという。



町指定文化財の「河内神社の大杉（鳥居大杉）」

ところで、南川口の産土神（氏神様）は、南川口バス停前にある河内神社である。境内には、町指定文化財の「河内神社の大杉（鳥居大杉）」がある。また、昭和の半ばまで、ここに保育施設があったことをうかがわせる遊具が残っている。

さて、戦国期、現在の川口小学校の裏山に川口城という山城があったようである。これまでに、数多くの歴史家がその存在を調査したのであるが、山のどの辺りにあったかは確定できていない。さまざまな文献などにより、存在していたことは間違いないというが、城主は不明である。ただ、山の麓に今もある雲龍寺というお寺が、城主の菩提寺ではないかとみられている。

この雲龍寺に祀られている観音菩薩は素朴であるが、顔立ちがたいへん美しく、腕のある仏師の作であろうと考えられる。またその脇を固める地藏菩薩なども作品性が高く、一見の価値のあるものばかりである。

町のうごき

(5月10日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,088	2	男 5	8	39	34
女	8,953	-1	女 3	8	31	27
計	17,041	1	計 8	16	70	61
世帯数	8,495	17	(5月中の届出)			
窪川地域	12,063人		大正地域	2,379人	十和地域	2,599人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	5月14日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.15
化学的酸素要求量	≤ 10.0	1.214

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部